

被爆 75 周年原水爆禁止世界大会 長崎大会「議長挨拶」

コロナの影響でこのような異例の大会運営にもかかわらず、ご参加頂いた皆さんに、心からお礼申し上げます。原水禁議長の川野です。

今年はその日から、75年、被爆者の平均年齢は83歳となり、当時5歳だった私も80歳になりました。被爆したのはここから200mほど中島川の上流。

R29 ボックス・カー号の投下目標地は逆に200mほど下流の常盤橋でしたが、雲に遮られて、探すことができず、投下したのは浦上でした。予定通り常盤橋に落とされていたら、長崎の古い町並みも、私も・・・跡形もなかったでしょう。

あの日も暑い日でした。長崎の街は7月末から連日空襲が続いていましたが、朝から出された警報が8時30分に解除されました。やっと私たちは、防空壕から解放され、近所の子と上空から聞こえる飛行機音に気づき「友軍機やろ」と、機影探していました。原爆を搭載したB29、ボックスカー号が小倉を諦め、長崎に来たとは・・・。気がついたら15mほど離れたところに倒れていましたが、幸い怪我はなく、すぐ近くの防空壕に逃げ込みました。中では爆弾がどこに落ちたのかと大騒ぎをしていましたが、近所のおじさんが「これは広島に落とされた新型爆弾ばい」と言った途端、壕内は静まり返りました。みんな広島のことには知っていたのです。しばらくすると、爆心地の方からひどい怪我や、やけどを負った人たちが逃げてこられました。

あまりにひどい状態だったので、親たちはその行列を子供たちには見せまいと防空壕の奥に押し込めました。

世界の核兵器は今年6月、9カ国で1万3,410発。前年同期から470発減少しましたが、中国は30発増の320発となり、フランスを抜き、ロシア、米国につき3番目に多い国となりました。

確かに前年と比較すると減少したとは言え、地球上の人類を何十回殺しても有り余る数字であることには変わりありません。

しかも近年、米国トランプ大統領は「中距離核戦力全廃条約（INF）」を失効させ、さらに「核体勢」の見直し・・・使える核兵器の開発」を表明するなど、極めて危険な状況で、また、米・露の核削減交渉の今後の見通しもたっていません。このような時だからこそ、「世界で唯一の戦争被爆国」我が国の出番があるはずです。

核兵器禁止条約にまず、賛同し、「北東アジア非核兵器地帯構想」を推し進めるのです。北朝鮮、韓国、日本の3国は核を持たない、米国、ロシア、中国はこの3国に核攻撃をしない。そうです、スリー・プラス・スリーを実現させるのです。そして、この構想を南半球と同じように北半球にも広げるのです。もうアメリカの核の傘はいらないのです。

皆さん、ご参加頂いている皆さん、希望を失ってははいけません。

75年前の広島、長崎を思い出してください。あの荒涼とした原子野を、夥しい死屍の横たわる原子野を、戦後まもなく、すべての働く人たちが苦しい生活の中から、お金を出し合い、新しい長崎の街を作りかえたではありませんか。そして、ノーモア・広島、ノーモア・長崎、ノーモア・ワーと叫び、私たちは75年間、平和憲法を守り続けてきたではありませんか。

私たちは75年間、核兵器をただの一度も、使用させてこなかったではありませんか。

NPT発効から50年、NPTの形骸化を、核兵器禁止条約でどのようにして、補っていくのか、難しい問題もあります。我々にできること、我々にしかできないこと・・・みんなで考えよう、話し合おう、そして行動に移そう。今日ここがその新たな出発点です。